

パネリング施工方法

■施工前

- 1) 商品が届いたら、まず商品を確認してください。
万が一、到着した商品に不具合があった場合は、返品、交換いたしますが、商品の施工後や加工後の返品、交換、張替え費用の負担等はできませんので、ご注意ください。

■保管・施工環境

- 1) 保管には水がかかりやすい場所、湿気の多い場所および直射日光のあたる場所は避けて、水平な場所で保管してください。
- 2) 外壁、サッシ工事が済み、外気や風が直接吹き込まない状態で施工してください。

■下地の施工

- 1) 木下地の場合（胴縁・野縁の上に直接施工する場合）
 - ・柱・間柱・胴縁・野縁は、乾燥した反りのない物を使い、303～455mm間隔で仕上げてください。
 - ・製品の継ぎ目下には必ず柱・間柱・胴縁・野縁がくるように割り付けてください。
- 2) 木質ボード（合板）下地の場合
 - ・木質ボードにはビス保持力が十分にあるものを使用してください。
- 3) 石膏ボード下地の場合
 - ・石膏ボード上に施工する場合は石膏ボードの下に必ず柱・間柱・胴縁・野縁などパネリングを確実に固定できる下地が必要です。
 - ・製品の継ぎ目が柱・間柱・胴縁・野縁の上にくるように割り付けてください。また、石膏ボードの継ぎ目と製品の継ぎ目は重ならないようにしてください。

■仮並べ

- 1) 色や木目に違いがありますので、必ず仮並べし色柄のバランスがよくなるよう配置してください。また、傷や塗装むらがないか等も確認してください。
- 2) 部屋の形状及び張り方向のデザインに応じて隅の収まりを考慮し、極端な小幅材が出ないように割り付けを行ってください。

■貼り方

パネリングの施工には、必ず接着剤と釘（ステープル）またはスクリーネイルの併用をしてください。

1) 接着剤の塗布

- ・接着剤はパネリング一枚ずつに塗るようにしてください。下地のボードに塗布しないでください。
- ・接着剤をサネ加工部分に使用しないでください。一箇所大きな隙間を引き起こす原因となります。

2) 釘、ステーブルの打込み

- ・釘、ステーブルは板厚の2.5～3倍の長さを目安に使用してください。
- ・釘、ステーブルを必ず柱・間柱・胴縁・野縁などに打込んでください。

3) 周囲の納め方

- ・パネリングの巾方向の両端は、柱や間柱などに密着させないで必ず5～10mm程度の隙間を設け、額縁や廻り縁などで隠してください。
- ・腰壁上部を、珪藻土や漆喰など塗り壁にする場合は、湿気によるパネリングの反りや膨張が起こる場合があります。
- ・鴨居・窓枠・ドア枠は、パネリングと密着させずに若干の隙間を空けて施工してください。
- ・パネリングの各板の張り込み及び、隣接する出入隅はきつくせず、若干の隙間を空けて施工してください。
- ・換気扇、点検口、ダクト、ダウンライトなどを取り付ける際は、取り付け部と下地の補強を十分に行ってください。